

この新聞は、思いのまま、流通経済大学の中で起きたことを「勝手に」取材し、気楽に編集して発行するメディアです。

〈略称: つなしん、と呼んでください〉

# RKU つながる新聞



会場内の作品を鑑賞する流経大の学生たち (11月8日)

## 連日五十人以上の賑わい、創出

### 「であうアート」展、新松戸で三回目の開催

毎年恒例となった障がい者アーティストの作品を展示する「であうアート展」が千葉県新松戸市の流通経済大学(上野裕一学長)で始まり、連日五十人以上の市民で賑わっている。

同展覧会は、千葉県成田市にある障がい者の生活介護事業所「生活工房」(三宅昌子理事長)に所属する作家が製作した絵画やオブ

ジェ、ニードルアートなどを地域に紹介するもので、二〇二二年から、流通経済大学が主催して、茨城県の龍ヶ崎キャンパスと、松戸

市の新松戸キャンパスでリレー開催している。二〇二三年には「東北巡回展」を実施、水戸市、宮城県大和町、岩手県釜石市、青森県八戸市を回って、広く東北の市民のみならずにも紹介してきた。

の作品も展示されるなど、過去最大、かつ多彩な百五十点以上の作品が集まっている。新松戸展の初日になつ

### 力作一五〇点が市民を魅了

おり、「生活工房」の三宅昌子理事長は「ガラス張りの会場なので、外からも楽しめるような展示をしたい」と話している。「であうアート展」は十一月三十日まで。(観覧は無料)同

今回はおなじみになった「生活工房」所属の作家の作品のほか、東北巡回展に協力した大和町の施設所属の作家や仙台市の公益社団法人「東北障がい者芸術支援機構」の協力を得て、東北各県在住の著名な作家の皆さんの作品も「友情出展」されている。加えて龍ヶ崎市内の施設所属の作家



井上理弓さん作「ちやいろひもお馬さん」

同月八日には「生活工房」の作家さんなど十四名が展覧会場を訪れ、それぞれ自己紹介を行い、出迎えた流経大生と「エール交換」する場面も見られた。今回からは会場を流経大一階にある「RCCスクエア」に移し、道を歩く市民からも会場内が見えるようになって

十一月八日から始まった「であうアート展」新松戸」を鑑賞した流経大生が選んだ「最も心に残った作品」に、井上理弓さんが制作した「ちやいろひもお馬さん」が選ばれた。これは新松戸キャンパスで水曜日一限に開講している「地域社会

### 「ちやいろひもお馬さん」が一番人気

学」を受講する社会学部や法学部などの学生五十九人が、同月八日に同展を参観し、一人一作品を選んだ。この結果、最も多い六票を得たのが井上さんの作品。躍動感あふれる馬が茶色い手綱や馬具を纏っている様子が描かれている。また二位には四票を集めた佐藤慶吾さんの「コライ

学生が投票

ジュウ、金杉匠蔵さんの「仏像」が選ばれた。また「友情出展」となった宮城県大和町の施設「いこいの家たんぼほ」所属の松伏大助さんが描いた映画ポスター風の連作四組を六名の学生が選んだ。いずれも「昭和のポスター」の表情を生き生きと活写した作品。子どもたちのころに、街で見かけた映画ポスターを記憶だけを頼りに「再現」した作品集ともいえる構成で、海外の展覧会でも高い評価を受けているという。このほか浅野春香さんの「思っていることを話す」、曾我部耕吉さん「トンビがさると輪を書いた」、石毛尚吾さん「ムンクの叫び」、金杉匠蔵さん「名古屋城」がそれぞれ三票を集めた。「ちやいろひもお馬さん」を選んだ駒形仁美さん(社会学部社会学科三年)は「細部まで描かれていて見入ってしまった」と話していた。